

(別記様式)

令和7年度 府立舞鶴支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
教育目標「よく学びより鍛えそしてよりよく挑め」を達成するため、特別支援教育を通して、学習指導要領や学校教育の重点に基づき、指導及び実践に努める。 1 特別支援教育の推進 (1) 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。 (2) 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。 (3) 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により、自立と社会参加を目指す。 2 学力の充実 個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。 3 心身の育成 (1) 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。 (2) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切に作る心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。	【成果】 1 「医療との連携・協働」 隣接する医療機関との連携・協働の下、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える「安心・安全」な学校づくりを進めた。地域社会をはじめとする外部の人的資源を活用し、ホームページ等を通じて広報を充実させた。 2 「交流及び共同学習の一層の推進」 保護者居住地の居住地校との一層の交流を進める傍ら、校内においてもICT環境を整備し、「重度重複」部門と「準ずる」部門の部門間交流を積極的に進めた。 3 「キャリア教育の推進と広報活動の充実」 PTA共催の社会福祉施設見学研修や12年間を見通した「キャリア・パスポート」の雛形を作成した。また、学校運営協議会での「熟議」を踏まえ、魅力ある学校づくりのための教職員研修を実施することができた。 【次年度に向けて】 1 「医療との連携・協働の下で個に応じた指導の深化」 感染対策を講じながら、児童生徒の障害特性や実態に応じ、人的資源を有効に活用し、個別最適な学びに努める。 2 「交流及び共同学習の一層の深化」 広い視野から、児童生徒の新たな学びの場として居住地校を含めた様々な連携を深め、児童生徒の啓発的体験や気づきを一層深化させる取組を進める。 3 「保護者等に信頼される学校づくり」 各々の児童生徒が自らの障害特性に応じて、その可能性を充分に開花させ、様々な学習場面で頑張る様子をホームページなどに掲載し、リモート配信に加えて、保護者参加型の授業参観などの機会をさらに充実させる。 4 ICT機器の活用による学習の拡充 ICT機器等を有効に活用し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを一層進め、児童生徒の最善の学びとなるように一層の創意工夫を図る。 5 実態に応じた適切な教育課程の編成 個別最適な学びの充実に向けて、児童生徒にとっての実態に応じた効果的な教育課程の編成に努めるとともに『キャリア・パスポート』の導入を図る。	1 健康管理や感染対策等、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に一層努める。 2 地域などの小学校・中学校との交流も含め、交流及び共同学習、更に児童生徒の実態に応じ、居住地校交流、外部の人的資源の活用、「部門間」交流を一層拡充させ、児童生徒の社会的自立を促す。 3 児童生徒の様々な学習場面をホームページに適宜掲載するなど、積極的な情報発信に努め、教育活動の理解の促進を図るとともに地域との連携を密にして、「地域に開かれた学校」づくりを図る。 4 ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、児童生徒にとっての最善の学びとなるように創意工夫を図る。 5 個別最適な学びの一層の深化を図り、児童生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し一人一人を伸ばす授業づくり、授業改善等に努める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	1 児童生徒の社会的自立を促し、児童生徒、保護者、地域から信頼され、地域とつながる学校運営の推進	(1) 地域などの小学校・中学校との交流及び共同学習に加えて、児童生徒の実態に応じた居住地校交流や外部の人的資源を活用し学校行事等の教育活動を充実させる。				
		(2) 各種会議を充実させ、分掌間及び教職員間の連携を図り、児童生徒の一層の実態把握に努めるとともに学習環境の整備を図る。				
		(3) 児童生徒にとっての個別最適な学びの一層の深化につながるような職場環境の整備に努める。				
	2 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携	(1) 健康管理や感染対策等を講じながら、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に努める。				
		(2) 参観日や懇談会、学校行事、PTA行事などを活用して、対面に加え、オンライン機器なども活用し、関係機関との連携を図る。				
事務部	1 児童生徒の深い学びの実現に向けた支援	(1) 学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、安心・安全な環境づくりに努める。				
		(2) 教材教具の新規購入や更新を行い、学習環境の維持向上に努める。				
小学部 中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力の育成	(1) 関係分掌との連携を深め、支援方法を工夫したり、支援機器等を活用したりして、安全と健康に留意し、教育活動を進める。				
		(2) 医療機関及び関係機関との連携を密にし、心身の状態に応じた教育活動を充実させる。				
	2 主体的に学ぶ力の育成と個別最適な学びによる基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、教科の視点を踏まえて、個に応じた取組や指導を行う。				

		(2) キャリア教育の視点からの実践により、キャリアパスポートを活用し、将来を展望する力を育成する。(小学部)			
		(3) キャリア教育の視点に基づいて、希望進路実現に向けてキャリアパスポートを活用しながら、指導を進める。(中学部)			
		(4) ICT機器等の活用を進め、児童生徒の主体性を引き出し、個別最適な学びにつながる授業づくりを進める。			
	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 全ての教育活動を通して道徳性を養い、自己共に思いやる力を育成する。			
		(2) 交流校や居住地校、部門や学部を越えた交流及び共同学習や様々な活動を通して、学校内外の人とのコミュニケーション能力を育成する。			
		(3) 校外学習等での公共施設の利用等により、児童生徒の豊かな体験活動を通して社会性を養う。			
教務部	1 学習指導要領に基づいた、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施	(1) 指導目標や指導内容の明確化を促し、適切な個別の指導計画の作成・実施を図る。			
		(2) 研究部や関係機関と連携し、個々の教育的ニーズと自立活動の内容との関連性を明確にした指導の構築を図る。			
		(3) 上記内容達成に向けて、計画的に研修を計画したり、情報提供したりする。			
	2 学習環境の整備・充実と校務の円滑化	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。			
		(2) 部内の業務内容を整理し、校務の円滑化を図る。			

		(3) 校務システム等、業務の効率化に向けた取組を進める。				
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の実践を基盤にして、友達や役割を意識した集団活動を進める。				
		(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育む。				
	2 児童生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長、仲間づくり及び人権意識の高揚	(1) 両部門のねらいを踏まえつつ、児童生徒の交流を深め、互いを尊重する心を育む。				
		(2) いじめ、問題行動等の未然防止及び、早期発見に努め、児童生徒の特性等に応じた指導を行い、速やかな対応・解決に努める。				
進路指導部	1 保護者、関係機関等との連携と、組織的・計画的・継続的な進路指導の推進	(1) 卒業後の教育と、生活や保障についての研修をすすめる。				
		(2) 進路に関する情報の収集と、発信・提供を行う。				
		(3) 保護者・関係機関等との連携を図り、児童生徒の状況と課題を共通理解して日々の支援・指導を行う。				
	2 進路を主体的に切り開く能力や態度の育成に向けた取組の推進	(1) 個々に応じた進路実現に向けた取組をすすめる。				
		(2) 「進路指導計画作成のための課題表」や「進路指導計画」「キャリア・パスポート」を活用し、小学部から中学部を見通した指導を行う。				
保健部	1 健康なこころと身体をつくる取組の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。				

		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。				
		(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識を、身に付け、病気を回復・改善できる力を育てる。				
	2 元気で安全な楽しい学校生活の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。				
		(2) 健康安全、医療的ケア等の研修を行い、教職員の意識高揚を図る。				
研究部	1 児童生徒の実態や課題に応じた授業を実施するための研究の推進 研究テーマ：「一人ひとりの教育的ニーズや障害特性を踏まえた自立活動の充実」	(1) 児童生徒一人ひとりの実態把握を行い、指導目標や内容を明確にし、自立活動の指導の工夫や改善を行う。(研究)				
		(2) 行永版流れ図「自立活動シート」を児童生徒全員分作成し、そのシートに基づき医療職（PT・ST・OT）とも連携し、「個別最適な学び」を更に深める。				
	2 教職員の専門性向上のための研修の推進	(1) 研究テーマに即した研修会や、授業改善と専門性の向上のための研修会を行う。(研修)				
		(2) 研究部たよりを定期的に発行し、教員一人ひとりが研鑽と修養を励むことのできるよう情報提供を行う。(研修)				
情報広報部	1 ICT機器およびソフトウェアの活用推進	(1) ICT機器及び校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。				
		(2) ICT機器及びソフトウェア活用に関する研修及び交流の実施やサポートを行い、ICT機器の利用を促進する。				

		(3) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。				
	2 ホームページからの情報発信の推進	(1) ホームページの保守管理を行い、円滑に運営、閲覧できるようにする。				
		(2) ホームページの作成や更新をタイムリーに行い、内容を充実させる。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に向けた改善の 方向性	